

保育 おきおか

平成18年4月1日 第368号

大阪府社会福祉協議会・保育部会
☎ 06-6762-9001 Fax 06-6768-2426

しっかり理解して しっかり配慮しよう

個人情報保護に関する研修会



講師の比嘉弁護士

合で、本人の同意を得ることが困難である場合、などが挙げられる。

講義の中で細かい質問にも丁寧に例をあげて説明をしていただき、また、最近のニュースもとりあげていただき、非常に分かりやすい研修会となつた。

とと思ひます

決勝戦は多くの国民がテレビで観戦し視聴率が50%を越え、感激を共にしました。たくさんの子どもたちもテレビの前で感動したこどもたちだと思います。

に、全力を打ち込めることが見つけ挑戦し、達成する喜びと感動する心を育てるよう保育していくたいと思つています。

（6か月以上継続利用する
ベースなどを構成する個人
情報）④保有個人データ（個
人データ（個人情報データ）
タベース（個人情報を含む
情報を整理し、検索できる
ようまとめたもの）③個
別の個人情報を識別できる
ものをさす）②個人情報デー
タベース（個人情報を含む
情報を整理し、検索できる
ようまとめたもの）③個
別の個人情報を識別できる
ものをさす）

選手の野球を愛する精神に感動しました。負けた時の悔しさ、勝った時の喜びの姿によく現れていました。今までは自己中心的でニヒルな印象の選手に見えましたが、心の底は違っていたようです。

決勝戦は多くの国民がテ

バランス感覚大切に

王監督のもと全選手が一致団結し「日本のために」全身全靈を尽くした姿に心を打たれました。特にイチロー

会福祉施設人権活動推進協議会と共催で個人情報保護に関する研修会を3月3日に開催した。

平成17年4月1日から施行された、「個人情報の保護に関する法律」について、資料をもとにご説明いただいた。

もの）などである。
これらの個人情報の利用について、目的以外の利用をしてはいけない。また、個人データについては、目的的範囲内であっても本人の承諾がないと利用できない。
また、目的については、事前に公表しておくか、本面前に公表しておくか、本人に対し、何が起き、どんなものが一の情報の流出を防ぐこと、窓口があれば望ましい。
また、万が一の安全管理制度を講じておくことも必要になつてくる。流出した場合、本人に対する対応策を講じておくこと、窓口があれば望ましい。

昭和21年からの野球ファンとして最高の喜びでした。



春分の日、
素晴らしいこ
とが起こりま
した。

子どものSOSしつかりキャッチ シッズ研修会

薬業年金会館で2月23日(木)、大阪府監察医で、医学博士の河野朗久氏を講師にむかえ、「子どもの安全を守るために」と題し、研修会を開催し、101人が参加した。

スライドを使っての分かりやすい講義で、子どもたちのSOSのとらえ方や対応などについてお話をいただいた。

河野医学博士

①客観的に身体をみて傷・栄養状態をチェック②やけど・手の甲・頭の外傷など傷の形から凶器がわかる③親の話のどこが嘘か。現実が大切で、自分の常識で考えない④赤ちゃんの頭蓋骨はプラスチックの下敷き程度の硬さなので、頭を打つたときは必ず医師に見てもらう、など。

また、虐待・窒息・病死も含め、解剖しても原因のわからなかつた子どもの突然の死をシッズと呼び、特殊な病気があるわけではないこと、その割合は兄弟が増えたにつれ上がっていくことなどをお話をいただいた。

近年、赤ちゃんは誰も見てない時に死んでおり、一人にされるのが問題で、何気ない受け应えが赤ちゃんに力を与えているのではないかとを考えられている。

保護者が子どもの病気による存在として、保育士の責務がますます重要になってきた昨今、子どもにとって親以外で一番安心のおけづかしいことが多くなってきた。研修会となつた。

健やかな成
育ちに重要な生活臨床について武庫川女子大学大学院臨床教育学研究所の白石大介教授にご講演いただき、91人が参加した。

子どもを育て、親を育てる

—地域子育て情報交換会—

アツフ研修会

「ため」

考えたとき、保
ものニーズの代
、父親・地域・
もへの視点が薄
よう、子どもへ
いろんなところ
るよう促してい
いけない。加え
地域子育て
情報交換会を、
3月16日(木)、
大阪社会福祉
指導センター
で開催し、57
人が参加した。

「保育の動向」とこれからの
保育所サービスのあり方」
と題し、大谷
女子大学の桜
井智恵子助教
授からお話し
ただいた。

まず、保育
サービスの現
状について、
低年齢児の待
機児童が年々
増加している
が、現在の子どもたちに現れているさまざまなもの（キレル・アレルギー・むかつ・アレルギーなど）と、その原因であることをわかりやすく説明された。
最後に、子どもたちの生活の中には親の姿があつて、その乱れを立て直すことが子どもの成長につながる。生きることは生活の積み重ねだ。

ねであり、より良い生活をどう作り上げていくかということが、心を作ることではないかと締めくくられた。

20年前と現在の子どもたちの絵の比較など、お話を具体的でわかりやすく、子どもの側に立った生活というものがいかに大切であるかということを改めて考えさせられた研修であった。

（龍谷保育園 M・T）

